出張報告書

令和　２年　２月２１日

職氏名 市議会議員　　恵良　健一郎	用　務 第４回サステナブルブランド 国際会議２０２０横浜
期　間 令和　２年　２月１９日から 令和　２年　２月２０日まで	出張先 パシフィコ横浜 横浜市西区みなとみらい1-1-1

意見・調査事項

２月１９日（水）

全国ＳＤＧｓ未来都市ブランド会議　13：45～16：50

●スペシャルシンポジウム

「地方創生・企業のイノベーション力をどう伸ばすか？」

遠藤　健太郎　氏（内閣府）

笠原　慶久　氏（㈱九州ＦＧ/㈱肥後銀行）

笹谷　秀光　氏（未来まちづくりフォーラム）

●リレートーク

１．スマートコミュニティ

（心が通う元気な田舎―舞鶴版Society5.0forSDGsの挑戦）

舞鶴市×オムロンソーシアルソリューションズ㈱

２．防災（ライフラインの強靭化×ＥＶによる途切れない電力）

熊本市×日産自動車㈱

３．社会的インパクトマネジメント

（自治体を取り巻く社会的価値の可視化）

宮城県女川町×ＰｗＣコンサルティング合同会社

４．空き家活用（空き家再生エコシステムの構築へ空き家の再生を軸に日本に新しいライフスタイルの提案に取り組みます）

釜石市×㈱ＬＩＦＵＬＬ

●ＳＤＧｓの達成に向けた地方自治体のビジネスセクターとの連携に関する意識調査結果報告

田中　信康　氏（ＳＢ　ＥＳＧプロデューサー）

●パネルセッション

ＳＤＧｓのその先に

～連携・共創でつくる都市のブランド/イノベーション～

青木　茂樹　氏（ＳＢアカデミックプロデューサー）

信時　正人　氏（ヨコハマＳＤＧｓデザインセンター）

Joan Elangovan氏（バンクーバーエコノミックコミッション）

飯沼　瑞穂　氏（東京工科大学）

２月２０日（木）

未来まちづくりフォーラム　10：00～12：20

●オープニング・トーク

北村　誠吾　氏（内閣府特命担当大臣）

●キーノート・トーク

日本創生ＳＤＧｓ経営

笹谷　秀光　氏（実行委員長）

●スペシャル・シンポジウム

「ＳＤＧｓ未来都市と関係者協創の最前線

関係者連携による「協創」で日本一/オンリーワンを目指すには」

久保田　后子　氏（宇部市長）

高橋　祥二郎　氏（㈱滋賀銀行）

野口　功一　　氏（ＰｗＣコンサルティング合同会社）

薄　良子　　氏（㈱オカムラ）

田口　真司　　氏（エコッツェリア協会）

●特別セッション１

世界を見る目で一関を拓く

勝部　修　　氏（一関市長）

見山　謙一郎　氏（㈱フィールド・デザイン・ネットワークス）

特別セッション　13：45～18：30

●スペシャル・トーク

「ＳＤＧｓ未来都市あいちの取り組みについて」

大村　秀章　氏（愛知県知事）

●招待講演

「ＣＳＶをテコとした地方創生

～地域課題の解決と高収益の同時実現を目指す～」

名和　高司　氏（一橋大学ビジネススクール）

●特別セッション１－２

デジタルガバメント×関係人口が挑戦する共創型社会の実現

佐藤　淳一　氏（福島県磐梯町長）

小池　克典　氏（㈱ＬＩＦＵＬＬ）

●特別セッション２

官民共同で地域の魅力創造村つくり/人づくり「VILLAGing」

堀岡　信也　氏（佐賀県庁）

橋村　和徳　氏（㈱ＶＩＬＬＡＧＥ　ＩＮＣ）

徳政　由美子　氏（㈱ＪＴＢ）

まちづくり×５Ｇ・ｌｏＴ

高倉　圭司　氏（大分県庁）

綱島　勇生　氏（前橋市役所）

日下　浩一　氏（横須賀市役所）

末次　光　　氏（㈱ＮＴＴドコモ）
持続可能な自治体であり続けるために
小松　洋介　氏（特定非営利活動法人アスエノキボウ代表理事）
宮城　隆之　氏（Ｐｗｃコンサルティング合同会社）
●特別セッション３
豊かな環境を次世代へ　武蔵野市エネルギー地産地消プロジェクト
朝生　剛　　氏（武蔵野市役所）
遠藤　大介　氏（ＮＥＣネッツアイ㈱）
スマートシティとビジネス創造に向けて
有山　信之　氏（さいたま市役所）
納村　哲二　氏（フェリカポケットマーケティング㈱　）

【所見】
今回の研修はＳＤＧｓに取り組む官民連携の取り組み事例や動向の発表があった。
始めのスペシャルシンポジウムにおいては、金融機関の役割について、九州ＦＧではまず、ＳＤＧｓの専門部署を設置し、その上でサスティナビリティー宣言を行い、全役職員が主体的に取り組むことを宣言し、投融資に関する指針とＥＳＧ投資目標を公表し、事業に取り組んでいる。また、国や地方自治体と協定を結び、普及啓発や循環型社会の構築等に取り組んでいるとの報告があった。
そのほか、ＳＤＧｓと経済価値の実現競争優位を同時実現の必要性や、三方よしの精神である等の話があり、今後は、産官学金労言のプラットフォームとしてのＳＤＧｓの重要性を認識することが必要であると認識した。
次のリレートークでは、４つの官民連携の事例発表があった。
1つ目の舞鶴市とオムロンは、心が通う便利な田舎＞便利な都会、を目指す舞鶴市がオムロンと協定を結び、お互い様の共生社会の第1歩として交通対策、共生型Ｍａａｓmeemoで公共交通の不便解消の取り組みを行うことの発表であった。
これは、交通事業者のドライバー不足を補完すべく、交通事業者との協力型で住民同士の送迎”を実現し移動の最適化を図るもので、本年４月から実証実験をはじめるとのことで、今後の経緯を注視したい。
そのほか熊本市では熊本地震での教訓をもとに、防災力向上事業として、日産自動車と連携し、電気自動車による電気の供給を行う協定を結び、電源確保を行っている例、宮城県女川町では、自治体を取り巻く社会的価値の可視化、データの解析とロジックモデルを構築し、それをＮＰＯなど中間支援組織が活用することで、社会課題を解決してく取り組み、釜石市では、ライフルと連携し、これまで相談内容によって部署がバラバラだった窓口を、空き家の見える化からマッチングまで「ワンストップ」で対応できる相談窓口に再構築し、空き家、遊休不動産の活用プロデュースを行っている事例の報告があった。
その後、横浜市のＳＤＧｓデザインセンターから発表があり、なぜ今ＳＤＧｓ

なのかということに対し、少子高齢化、子育てストレス、貧困等、地域・社会で起こっている様々な問題は、複数の要因が絡み合っているため、何が原因で生じているのか、1つに定めることができない。だから多くの人々が参加し、多くの人々の力を活かして問題に挑むことが重要で、そのゴール（目標）は、それぞれつながっている。多様なステークホルダーがゴールを共有しながら、それぞれができることを行っていくことで、持続可能な社会を実現していくとのお話があった。

2日目のスペシャルシンポジウムでは、論点として①SDGsで協働基盤となる「産官学金労言」のプラットフォームをいかに作っていくか。②SDGsにより、関係者がwin-win関係を作って共有価値を創造し継続性を持たせるにはどうするか。③SDGs活用と発信のコツは何か。の３つを論点から、それぞれ発表があった。宇部市と滋賀銀行はSDGｓ宣言を行い、オカムラは働き方改革を通して、エコッツェリア協会は連携のハブ役としてそれぞれ上記の３つの論点に対して意欲的に取り組んでいる。特に宇部市については、人材は宝と銘打ち、過去の公害の克服の経験も踏まえ、積極的に取り組んでおり、県内の近隣自治体でもあり、大いに参考となった。

その後の特別セッションでは官民さまざまな立場の方から事例発表や、意見発表があった。聞いていて感じるのは、いずれも、社会的な課題の解決、持続的な地域作り、三方よしの仕組み等、これまでにない形をつくりだすために、官民連携し、実践しており、そこに目標としてＳＤＧｓの指標を落とし込んでいる。皆さん、大変なことはさらっと話すのだが、形になるまでのご苦労は大変であろうと察する。下関でどれか一つでも形にしようと考えたとき、まず何から手をつければよいのかと思ってしまうが、まずはＳＤＧｓの指標を行政が自分たちの計画に落とし込み、考えながら事業を行いつつ、市民の皆さんにも少しづつ啓発していく必要がある。

全体の講義を通じ、これまでのやり方では人口減少、少子高齢化の現在の課題は解決しない、行政や議会のあり方や仕組みを少しずつでも実情に合わせて変えていくことが必要で、そのための知恵を、官民協働で出していく必要性を強く実感した。

全国SDGs未来都市ブランド会議

スペシャル・シンポジウム
「地方創生・企業のイノベーション力をどう伸ばすか？」

笹谷 秀光
未来まちづくりフォーラム 実行委員長
笠原 慶久
株式会社九州フィナンシャルグループ 代表取締役社長
株式会社肥後銀行 代表取締役頭取
遠藤 健太郎
内閣府　地方創生推進事務局　参事官